

新年の宮崎会長ご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。

まず初めに、年初に発生いたしました令和6年能登半島地震でお亡くなりになられました方々へお悔やみ申し上げますとともに、被災されました皆様方に対し、心よりお見舞い申し上げます。

合わせまして、被災地の1日も早い復興復旧がなされますよう祈念申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、長引くロシアによるウクライナ侵略、イスラエル・ハマス紛争など地政学的な不安定さが物価に影響し、世界的なエネルギー価格、原材料価格の高騰が依然として続いた年でした。

一方、コロナ禍からの制限が緩和されたこともあり、サービス業などがけん引する「事（コト）消費」からの緩やかな景気持ち直しも見受けられました。

しかし、残念ながら「物（モノ）消費」の拡大による製造業の回復には至りませんでした。世界的な景気低迷もありますが、やはり中国の景気回復が期待通りに進まなかったことが大きな要因と考えます。

私どもの伸銅品需要においても、「物（もの）消費」が進まなかったことに加え、一昨年前に積み上がった在庫調整に時間を要したことなどから大変な苦戦を強いられた年でありました。

その結果、2023年暦年の伸銅品生産は、各需要先の多くが回復には至らず主要品種が減少したことから、昨年9月に策定した改定見通しとほぼ変わらず、対前年約1割減の64万トン程度となる見通しです。



一般社団法人 日本伸銅協会
会長 宮崎 庄司

それで、2024年の伸銅品の需要についてですが、

「板条製品」は、昨年後半より日系をはじめとしたグローバルでの自動車生産台数の増加に伴い、部品需要の回復が着実なものになり始めていることから自動車関連用途の端子コネクタ材が回復基調にあります。

また、半導体用途材は、低迷していた民生向けにも底打ち感がみられ、日本を始め、世界各地での半導体生産工場の投資計画が進捗していることも踏まえると、2024年半ばからの回復が期待されます。

「銅管」については、ルームエアコンが今年の猛暑による在庫消化が進んだことや、大型物件の着工の進展によりパッケージエアコンについても今後の拡大が期待されます。

「黄銅棒」については、建築着工の人手不足や住宅着工低調の影響もありますが、今後は緩やかな回復が期待されます。

日本伸銅協会が昨年秋にまとめました中期需要見通しにおいては、「板条製品分野」では来るべき社会でのニーズから一貫した伸びを見込んでいるほか、「銅管」や「黄銅棒」もインフラ整備の必要から回復基調を辿り、持続可能な社会に向けた各種投資関連の新規需要立ち上がりが見込まれることから「伸銅品全体」は製造業全体と連動して緩やかに成長すると予想しております。

こうした中、2050年のカーボンニュートラルに向けて、地球環境問題にも取り組んでいくことが重要です。

日本伸銅協会では、カーボンニュートラル行動計画における2030年目標の見直しも行い、2013年度比で約33%のCO₂排出量削減を掲げており、昨年は目標に対しての達成率は47%でありました。

日本伸銅協会としては、引き続き会員企業の目標達成に向けた努力を後押ししていく所存です。

また、サーキュラエコノミーについては、本年度の事業として実施しているマテリアルフロー調査をしっかりと実施して、その結果を踏まえて更なるリサイクル原料確保に向けた対応を行っていきたいと思っております。

伸銅品を取り巻く環境は、製品の軽薄短小化の進展、中国をはじめ近隣の伸銅業の技術水準の向上、原料高騰による他素材との競合等厳しく、これら

の課題に対し、銅の持っている特性を活かし、優位性を高く認めてもらえることが重要なことであると認識しております。

そのため、日本伸銅協会では「日本銅学会」の支援を通じて、銅の優位性を高めるための産学連携の研究を一層推進してまいります。

今年から、我々は、いわゆる「物流の2024年問題」に直面致します。昨年末に作成し、経済産業省にも提出した「伸銅業界における物流の適正化・生産性向上に向けた自主行動計画」を踏まえて、しっかりと対応をしていきたいと思っておりますが、想定外のことが発生するかもしれません。その場合でも業界として問題点を抽出し、対応策について協議し、必要があれば自主行動計画に反映するなどして対応していきたいと考えています。

昨年8月、ご就任の挨拶のため、経済産業省 製造産業局長の伊吹様を訪問させて頂き、伸銅業におけるリサイクル原料の海外流失問題やエネルギー価格の高騰による電力料金問題を始め伸銅業界の抱える課題についてご説明をさせて頂きました。

今後も協会としては、政策立案に役立つ情報を提供させて頂きますので、ご対応をよろしくお願いいたします。

新型コロナ禍以降この4年で市場は急激に変化致しましたが、更なる変化も予期されるところです。

このような変化にも対応し、先ほどの課題にも対応をしていくには、今後も伸銅品の価値(VALUE)をいかに向上させるかが重要です。

それには我が国の伸銅品の特徴である「高性能かつ高品質で、魅力のある製品」を引き続き提供していくことに他なりません。

そのためには、流通業界及びリサイクル業界を初めとする関係業界のご理解とご協力を頂くと共に、関係官庁のご支援が必要なことは言うまでもありません。引き続き皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

今年の干支は辰年ですが、2024年は、「甲辰（きのえ・たつ）」であり、「これまでのコツコツと蓄えられた学びが芽を出し、活力に満ちた草木のようにすくと伸びて、努力が花を咲かせる」といった縁起の良い年とされています。是非とも、これにあやかって、大きな成長を遂げられる

一年となることを祈念しております。